

独立香箱と専用脱進機を持つ 本来のインディペンデントセコンド

ク

オーツムーブメントがシエアの大半を占めた現在、秒針のステップ運針自体は特に珍しいものではない。しかし機械式でこれを再現しようとする、専用の輪列設計が必要になってくる。通常輪列から秒針専用の輪列をバイパスさせた中取機(シエアのキャリバー17400など)まで総称してインディペンデントセコンドと呼ぶ場合もあるが、秒針専用の独立香箱を備えたムーブメントを、本来の意味でのインディペンデントセコンド(独立秒針)とするべきだろう。発明は1776年。後年にレバード脱進機の衝撃面を分割して、現在のスイスレバード脱進機の原型を考案したジャン・モイズ・ブ

グローネ・フェルド ワン・ヘルツ

文字盤のほとんどを占めるインダイヤル内に、デッドビートセコンドとパワーリザーブ表示を配置。手巻き(Cal.G-02)。39石。2万1600振動/時。パワーリザーブ約72時間。18KRG(直径43mm)。世界限定20本。価格未定。日本未入荷。http://www.gronefeld.nl

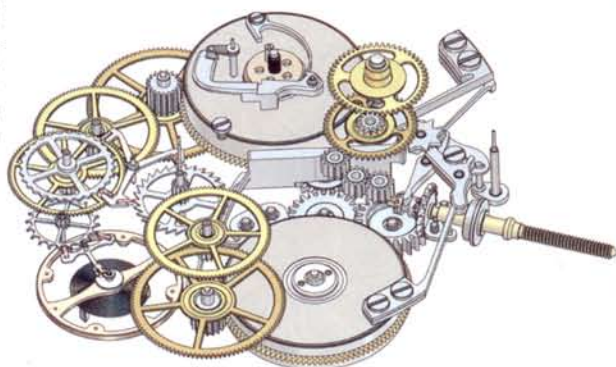
CHAPTER 2.1

Independent Second



秒針駆動専用の独立香箱を備えた、手巻きのCal.G-02。フリースプリングや巻き上げヒゲ、トライアングルスタッドのヒゲ持ちなどを備えた高級機として設計されている。エングレービングとマイクロプラスト仕上げが施されたSS製のブリッジに、穴石はゴールドのシャトン留め。インディペンデントセコンドが収まる日の裏側のスペースには、サーキュラーグレイ仕上げの大振りなブリッジを置く。ヘルラージュの仕上げも見事なもの。地板はジャーマンシルバー製。直径35mm。

手前が秒針用の専用香箱。4番車と同軸に30歯のカムが置かれ、ダブルレバー式の特異なアングルを介してデッドビートセコンドを制御する。なお基本輪列と時分針配置の関係から、2番車と簡カナも分離して配置されている。



1ゼの手によるものだ。独立香箱まで備えた。本来のインディペンデントセコンド。を新規設計した独立時計師が、オランダにワークショップを構えるティムとパートのグローネフェルド兄弟。2010年にコンセプトドローイングだけは目にしていたが、完成した「ワン・ヘルツ」の実機は、今年のバーゼルワールドが初お披露目となった。08年にはトウルビヨン・ミニッツリビーターも完成させている両氏が掲げたワン・ヘルツのコンセプトは、定力装置を用いず、かつスイスレバード脱進機のままでデッドビートセコンドを実現させること。4番車と同軸に秒針専用のカムを追加し、デッドビート専用の脱進機を制御しつつ、運針用のトルクを専用香箱から得る手法は、懐中時代に多く見られた独立秒針の作法そのままで。